



明治 150 年を節目に光再び 伝統織物の歴史をふりかえる

引き込み (綜統通し)

石川県指定無形文化財

能登上布

明治 40 年には皇太子殿下の献上品に選ばれる
(中能登町能登部下乗念寺目録より)

能登上布は、麻糸を用いた手織りの織物で
細やかな拵模様が特徴

【能登上布の歴史】
今からおおよそ二千年前に、崇神天皇の皇女が現在の中能登町の能登部下に滞在した際、この地に機織りを教えたのが、能登上布のはじまりと伝えられています。

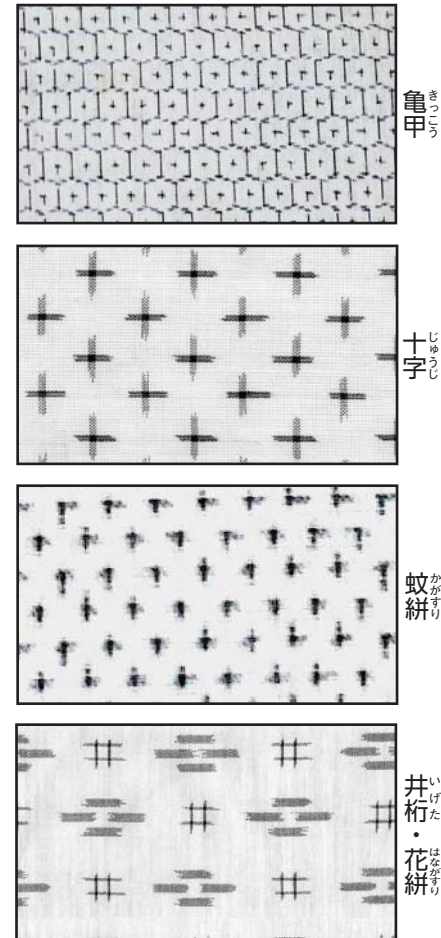
その後、江戸時代に近江（現在の滋賀県）から技術を導入して発展し、昭和初期には、麻織物の生産高が全国一位になりました。

昭和三十五年には、石川県の無形文化財に指定されています。

【能登上布の柄】
能登上布は、麻糸を用いた手織の織物で、麻独特の通気性の良さや軽さに加え、さらりとした肌触りです。

細やかな拵模様が特徴で、拵の種類には亀甲、十字、蚊拵、井桁などがあり、櫛押捺染や丸形捺染などの技法で染め分けた拵糸で、経緯の柄を合わせながら織り出し、一幅（約三八〜四二cm）に六十から百二十もの拵が入り、拵が細くなるほど仕上がった製品は高価となります。また、男性・女性によって拵技法や色を使い分けるのも能登上布の特徴です。

<能登上布の柄の種類>



くだまき

◆伝統織物の継承事業
能登上布アーカイブ（保存活用）
事業を進めています。

町では、明治元年（一八六八年）から満百五十年の年にあたるこの年に、国の「明治百五十年」関連施策として、能登上布振興協議会と連携して、能登上布の柄の保存や映像、アニメ制作などを進めています。伝統織物の「能登上布」に今一度、光をあて確実に後世に受け継いでいくためにも、皆様のご協力をお願いします。

◆能登上布の柄や機織り機を集めています

皆様のご家庭で、能登上布の柄や機織り機をお持ちの方は、能登上布会館までお持ちください。

※2週間ほどお借りします。

能登上布会館
☎0767・72・2233

0767・72・2233

能登上布会館

能登上布のあゆみ

年代	中能登町織物のあゆみ
弥生時代	約二千年前、崇神天皇の皇女、淳名杵入姫命がこの地に滞在した際に、機織りを教え広める (能登上布のはじまり)
江戸時代後期	1814 近江（現在の滋賀県）から技術を導入して発展
明治 10 年	1877 能登製布会社創立
明治 34 年	1901 養蚕業も盛んになり、絹織物の生産が始まる
明治 40 年	1907 能登上布が皇太子殿下への献上品に選ばれる 全国的に能登の麻織物の上質さが認められ「能登上布」という称号が付けられる

